平成29年度　攻玉社中学校（国語）　解答・解説

解答

一
1　いつだつ　2　ごようたし　3　はば〔む〕　4　げきりん　5　いろど〔る〕

二
1　湿地　2　要領　3　散漫　4　言及　5　束〔ねる〕

三
1　カ　2　オ　3　サ　4　ス　5　イ

四
問一　一騎当千
問二　勇太
問三　1　オ　2　キ　3　カ　4　ウ　5　ア　6　エ
問四　オ
問五　おおくは目
問六　酒さかな
問七　ア、エ
問八　ウ、オ

五
問一　（植物の）自身の生命を自然と共に循環させる（生き方）
（動物の）自分の外にある養分を捕獲して生きる（生き方）
問二　ウ
問三　ア
問四　ウ
問五　ア
問六　エ
問七　イ
問八　イ
問九　A　ウ　B　ア　C　イ
問十　イ
問十一　狩猟や牧畜を主とした西洋社会の工芸は、古代から個人芸術の芽を内包し、近代の機械文明によってその芽が開花したから。
問十二　エ

解説

四

問六　――線部②の前に着目します。「ほうびのかわりに伝右衛門へ、この正則から酒さかなをつかわそう。」と話した後に、正則が一通の書状をかいて、伝右衛門へあたえたことから、「酒さかな」が二千石の加増と組頭への出世のことであるとわかります。

問七　▼から▲のあいだには、勇太に笑われたことをくやしく思った松蔵が、父に合戦の手柄について尋ねる様子が描かれています。ごほうびも加増もいただけないことをすこしも気にしていない父を見て、気が晴れてきたが、勇太にいいかえしてやることはできないのだと思えば、やっぱりくやしかったという内容から、適当なものとして選択肢アとエが選べます。

問六　――線部⑤の前に着目します。柳が「工芸的なるもの」の本質を、「型」のなかに見ていて、そのような「型」の終わりない反復、再生を、自然によって意志された「模様化」と呼び、生の「工芸化」と呼ぶことを説明しています。本能とは自然による生の「工芸化」であり、このような本能は、動物のなかに保持されている〈生の植物性〉から来ていることから、選択肢エが選べます。

問十二　本文半ばで、「工芸的なるもの」は、世界性を持っていることを説明し、最後の段落で、工人の手技は、知性によってではなく、知性をはるかに超えた本能によっていることから、選択肢エが選べます。